

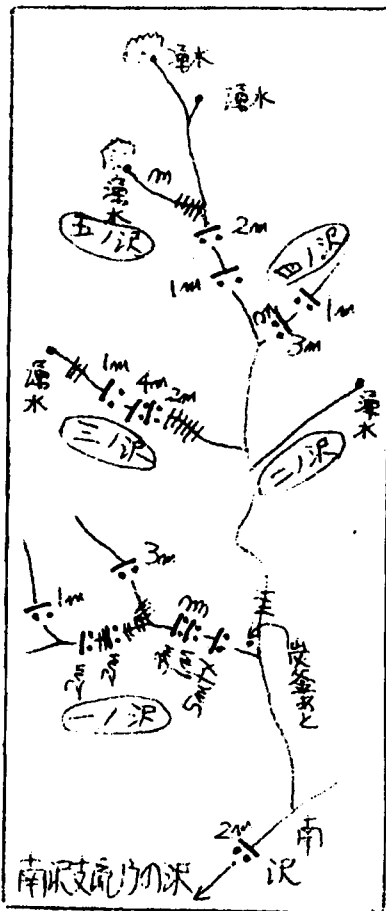
南沢支流ウの沢(仮称)と
その支流一ノ沢左俣, 右俣,
二ノ沢, 三ノ沢, 四ノ沢,
五ノ沢

1987年9月15日

8:05出合発。花崗岩を刻んで流れる沢だが、第3紀層の黒い石がゴロゴロしている河原を進む。小さなナメを越え、10分程で支流の一ノ沢(仮称)出合。本流をつめる前に支流の偵察をすませることにする。

小滝が続いて10分足らずで二俣。もう源流の装いだだが、まずは左俣へ進む。左俣は小滝が2つ出てきたあと、第3紀層に変わり、最後は急峻なルンゼ状となって稜線に突き上げていた。右俣の方は花崗岩が源頭まで続くが小滝が1つあるだけで終ってしまった。

本流に戻って遡行を続ける。まもなく沢が蛇行するとともに、第3紀層に変わる。



ここからは沢筋に岩屑が目立つようになった。そのあと二ノ沢(仮称)と三ノ沢(仮称)が間を置かず合流する。三ノ沢から偵察に入る。

出合から少し進むと小滝が出てくる。ホールドは無数といって良いほどあり、簡単に直登する。ただ、岩がポロポロでポロッと抜け落ちてくるものがあるのには弱った。小滝を越えるとあとは平凡。水源は、岩屑の中から湧き出てくる清水であった。

二ノ沢の方は完全に平凡。崩れ落ちた大小の岩屑がポロポロしているだけの何もない沢であった。源頭に行くと、積み重なった岩屑の間から清水が湧き出していた。

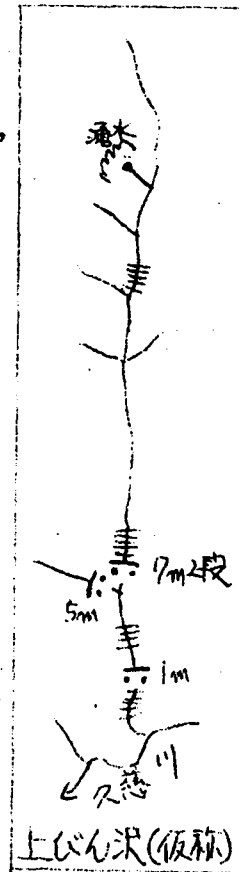
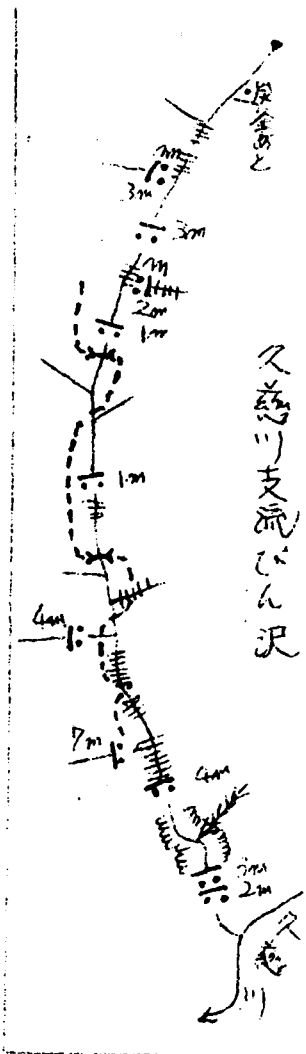
本流に戻って5分程遡ると、四ノ沢(仮称)出合。小さな岩場があって雰囲気だけは険悪。四ノ沢は出だしが急峻となり、3mの滝がかかる。2本の大きな倒木が滝にひっかかっている。ホールドは多く、簡単に直登するが、岩がモロいには参った。この上は平凡となり、岩屑だら

けのまま沢は終わった。

再び本流に戻る。2mの滝を越えると五ノ沢(仮称)出合。五ノ沢も岩屑がいっぱい積み重なっているだけで、何もなく、源頭は小さなガレとなっていた。

本流の方ももう何も出てこない。そして崩れた岩屑で埋まるようになるともう源頭である。やはり第3紀層になると何も出てこないということを実感させた沢であった。

【タイム】 ウの沢出合(8:05)→一ノ沢出合(8:15)→一ノ沢左俣終了・右俣下降開始(8:35)→ウの沢本流(8:50)→三ノ沢出合(9:00)→三ノ沢終了(9:20)→二ノ沢出合(9:30)→二ノ沢終了(9:40)→ウの沢本流(9:50)→四ノ沢出合(9:55)→四ノ沢終了(10:05)→ウの沢本流(10:10)→五ノ沢出合(10:15)→五ノ沢終了(10:20)→ウの沢本流(10:30)→ウの沢終了(10:40)



上びん沢(仮称)

1987年9月15日

出合に車を止めて、7:10上びん沢(仮称)の遡行開始。しっかりした砂岩質の沢床が続く。まもなく小さなナメを越え、7m 2段滝が出てくる。これはついていると喜こんだが、あとが続かない。何方かナメがあっただけで、平凡なまま源頭に達してしまった。遡行終了8:30。(簡)

【タイム】 出合(7:10)→遡行終了(8:30)

びん沢 1987年9月15日

8:50びん沢の下降開始。急な斜面を下って行くと源